

第20回動物用インフルエンザワクチン国内製造用株選定委員会

(令和7年7月11日～7月18日書面開催)

1. 委員

北海道大学教授 迫田義博 (委員長)

動物衛生研究部門

人獣共通感染症研究領域新興ウイルスグループ長 内田裕子

麻布大学教授 河合一洋

日本中央競馬会競走馬総合研究所研究役 根本学

東京大学教授 堀本泰介

鳥取大学准教授 曾田公輔

2. 議題

- (1) 2024/25年シーズンの鳥インフルエンザウイルス参照用株の選定について
- (2) 鳥インフルエンザ (油性アジュバント加) 不活化ワクチン (H5亜型及びH7亜型) の製造用株の変更の要否について
- (3) 馬インフルエンザ不活化ワクチン及び馬インフルエンザ不活化・日本脳炎不活化・破傷風トキソイド混合 (アジュバント加) ワクチンの製造用株変更の要否について

3. 審議結果

- (1) 2. 議題 (2) について、1. に示す全ての委員から書面により意見を聴取したところ、全ての委員が2024/25年シーズンの鳥インフルエンザウイルス参照用株をA/chicken/Chiba/24A2T/2024とする事務局案について、妥当であるとの意見であった。

このことから、本委員会としては、2024/25年シーズンの鳥インフルエンザウイルス参照用株をA/chicken/Chiba/24A2T/2024とすることとした。

なお、近年の野外ウイルス株の抗原性により近い株を選定するために、複数の野外発生株について血清学的試験を当所において実施すべきという意見があった。

- (2) 2. 議題 (2) について、1. に示す全ての委員から書面により意見を聴取したところ、製造用株を現時点で変更する必要はないとの意見で

あった。また、2024/25年シーズンに発生した野外ウイルス株だけでなく、過去のシーズンに発生した野外ウイルス株も同時に血清学的試験を当所において実施すべきとの意見が出された。

このことから、本委員会としては、同ワクチンの製造用株を現時点で変更する必要はないと結論することとした。

また、鳥インフルエンザ（油性アジュバント加）不活化ワクチン（H5亜型）の製造用株については、近年の野外ウイルス株の抗原性により近い株を選定するための検討を進めることの必要性を再確認した。

(3) 2. 議題(3)について、1. に示す全ての委員から書面により意見を聴取したところ、全ての委員が同ワクチンの製造用株を現時点で変更する必要はないとの意見であった。

このことから、本委員会としては、同ワクチンの製造用株を現時点で変更する必要はないと結論することとした。